かる利害関係者の中の大多数の人

を有し、かつ、企業と特別の利害

る「経済的独立性」といかなる誘 にも身分的にも独立しているとす ある。独立性には、企業と経済的

関係者である。しかしながら、か て、適当な専門的能力と実務経験 治体、さらには一般消費者も利害 適正に表示しているか否かについ



偽記載罪と違法配当罪で起訴され両社の前会長は有価証券報告書虚 業、販売両社の粉飾決算事件で、 昨年夏に発生した不二サッシエ

ほう助罪で起訴され、罰金各二十 士協会も公認会計士法に基づいて 万円が課せられ、また、公認会計 らず「適正決算」との監査報告書 両社の大掛かりな粉飾にもかかわ ているからである。

いう「二重責任の制度」に立脚し らば株を売るべきか、さらに買う も、会計士がそれを発見し、かか 規定されている。いずれの独立 の財務諸表が適正であるか否かと 計士の監査報告書を参照すること 求されるのは、現代の監査制度が によって 直接に 経営に は参加せ を負い、これに対して会計士はそ の財務諸表の適正性を証明する会 「経営者は財務諸表の作成に責任 ず、企業が公表する財務諸表とそ

経営者と会計士の両方の責任が追
たらされた「所有と経営の分離」 懲戒処分にしている。 このように 々は、企業の大規模化によっても 表明する社会的責任を有している 下す「精神的独立性」に分かれ 当な注意をもって監査し、意見を 常に客観的判断を、信念をもって 立場から職業的専門家としての正 とらわれず、公正不偏の立場から 関係のない会計士も、公正不偏の 感や圧迫にも負けず、義理人情に

いう意見の表明に責任を負う」と によってのみ、たとえば、株主な た財務諸表を公表しようとして はこれらの独立性について詳細に もちろん、たとえ企業が粉飾し 計士法および監査証明省令などに

のである。 る。わが国の証券取引法、公認会 さらにいっそう推進していく旨の に、監査の質的向上、充実強化を 務と職業倫理の自覚を促すととも 会会長から会員に対し、社会的青 出された。これを受けて会計士協

取引所も全上場会社に対し、財務 所信が表明され、また、東京証券 内容を適正に開示するよう要請書

粉飾決算と公認会計上の社会的責任

も、有価証券報告書虚偽記載罪の なって、大多数のしかも多種類の がって、経営者は自己の経営上の を提出していた二名の公認会計士 業の経営規模が拡大されるにとも をせざるを得ないのである。した 一方総額約四百三十億円に上る 利害関係者を生み出している。企 提供した 金融 機関や 一般 社債権 業に資本を提供した株主、資金をかりではなく、利害関係者の意思 や事業税を徴収する国家や地方自 る従業員およびその家族、法人税 があり、また、かかる財務諸表が 先や仕入先、労働力を提供してい 財務諸表を公表すべき社会的責任 者、企業と売買関係を有する得意 判断資料として信頼される適正な 現代の資本主義経済社会は、企 企業の財政状態および経営成績を 決定を誤らせないために、彼らの 指針として財務諸表を作成するば すべきかどうか、という意思決定 べきか、取引先ならば取引を継続 的責任は免れることになる。この を表明すれば、会計士自身の社会 じて限定付適正意見か不適正意見 る財務諸表を訂正するよう助言勧

商学部教授 高 田 駒 次

ないで、粉飾の重要性の程度に応 は、まさしく後者の精神的独立性 は監査報告書で適正意見を表明し りながら 適正意見を 表明したの 告をする。もし訂正しない場合に 件に関して会計士がその粉飾を知 性も重要であるが、今回の粉飾事 に欠けていたためである。 沢村広一氏(四十七年卒)の公認 初め、田中寛治氏 (三十二年卒) にも、谷知博一氏(十七年卒)を 会計士、佐藤元治氏(四十七年 末筆ながら、本学の卒業生の中

に「独立性」が要求されることで めとして、大蔵省から昨年九月に 場合に最も大切なことは、会計士 の再検討が叫ばれ、まずその手初 として、関係各方面から監査制度 監査の徹底と企業から独立した厳 正な監査を求める証券局長通達が 公認会計士協会に宛てて、組織的 そこで、今回の粉飾事件を契機 られ、それぞれ会計士事務所に所 青野弘氏(五十年卒)、藤嶋誠三 が、今後の一層の御活躍を祈って 属して監査業務に従事されている 氏(五十二年卒)の会計士補がお 卒)、斉藤光男氏(四十九年卒)、 ペンをおくことにする

昭和54年4月12日 (第48号)

郎

く再来するのが待たれる次第であ 会の信頼を回復する日が一日も早 当な監査意見を表明し、もって社

きを土台として、企業は適正な財 務諸表を公開し、会計士も公正妥

が出されている。かかる一連の動

## 野球に明け暮れ た夏休み

高 田 駨 次 郎

まで行ったのである。そしてもっ うととはできなかった。旅行と言 とも大きな問題は食糧であった。 えば、二回、夏休み中に全日本大|ンドで野球の練習をしていた。 百 習があったので、旅行とか新しい 生として青春時代を送った。 研究計画を立てて勉強するとかい の西南学院専門学校経済学科に入 **卿員列車の通路に座ったまま東京** ん特急寝台車もなく、冷房のない **戸行列車で博多から東京まで二十** に行ったことだけである。当時は 字野球選手権大会出場のため東京 ていたが、夏休み中もほとんど練 学した時である。以後、専門学校 ったのは昭和二十三年四月、当時 ・大学を通じて五年間、西南の学 私は在学中硬式野球部に所属し | であるが、無計画な旅行や旅行の 私が初めて西南学院の門をくぐ | 車の中で食べる弁当を持って行か | ころんで海水浴に来た人たちが練 | 習を見ていた光景が今でもなつか | ラウンドのすぐ横の松林の中に寝 | 夏休みに野球の練習をしているグ | は市内唯一の海水浴場であった。 浴も危険がともなうものであり、 しく思い出される。しかし、海水 道の海岸は現在は泳げないが当時 |ためのアルバイトに熱中し過ぎな はなく、現在の西南高校のグラウ いように注意していただきたい。 事付きの旅行を愉しんでいるよう 新幹線やスカイメイトで豪華な食 ることがあった。現在の学生は、 さのために東京に着くころには腐 ねばならなかった。その弁当も暑 また、当時は干限のグラウンド

> いは好きな全集ものを読むとか、 山、キャンプも良いだろう。ある なるよう期待している。旅行、登 いただきたい。 険な場所で泳がないよう注意して れる。十分に準備運動を行い、危」となく夏休みが過ぎてしまったと 分な計画を立て、愉しい思い出と| とにかく、夏休みに入る前に十 | みが終わったらすぐ前期試験が始 っておくことである。 まるのだから、そのための準備は いうのが一番良くない。 そして一番大切なことは、夏休

意されたい。 | 夏休み中に、いや夏休み前に終わ 最後に、健康にはくれぐれも智 (商学部教授)

昭和56年7月2日(第57号)

灣記検定、自動車学校などの資格 の勉強をするのも良い。ただなん

## 日本監查研究学会第七回全国大会

旅館に差出す米五升に三回分の汽ー毎年必ず多くの人の水死が発表さ

四人を含む八十三人の会員と来賓 のうちはるばる北海道から参加の

一論題でつぎの四氏が、発表され

務諸表監査拡大の論理」という統



れることになり、本学がその主催 まで関東、関西方面の大学で交互 ざれた。当学会の全国大会はこれ 今の中心部を離れて九州で開催さ 量研究学会第七回全国大会が開催 引き受けたのである。 に
開かれて
きたが、
今回
初めて
日

に急逝された山桝忠恕会長(慶応 ず午後一時から会員総会が三日前 **義塾大学)の御冥福を祈っての黙 午後六時から本学合宿研修所で、** 

したがって、まず、参加者数が 藤および会長挨拶の代読という異 村上寅次学長(当時)、辻和夫商 が三時間にわたって行われ、会員 授 高田駒次郎)

厚く御礼を申し上げる次第であ

ズに運営することができた。 さて、大会初日の十六日は、ま

日の両日、本学において、日本監 昭和五十九年十一月十六、十七 得ず大学祭と重なったので、騒音

人計九十人の参加者を迎えること 科大学・山浦久司)、②財務諸表 出身者を中心とする公認会計士七 州会の村山勇吉会長をはじめ本学 見る財務開示および監査の拡充の として日本公認会計士協会北部九 た。①英国会社法の会計規制史に 表をもって無事一日目を終了し、 学・檜田信男) 森実)、<br />
①企業の存続に関する情<br />
川健蔵)、<br />
②「意見差控え」の監 大野公義)、③監査機能拡大の全 過程と大小会社区分問題(干薬商 報の監査と財務諸表監査(中央大 査報告書(関東学園大学・藤野信 以上、四氏による統一論題の発 つづいて前日の統一論題の討論会 る。(大会準備委員長・商学部教 新会長(神戸大学)の就任挨拶に

心配されたが、会員総数一八〇人 例の方法で始まり、続いて、「財

にわたって開催された。 特別招待して、懇親会が約二時間 について真剣に意見が交換され、 学部長および前述の公認会計士を が直面している新しい監査の分野 そして、翌十七日は、まず午前 午後四時無事大会が終了した。

などが心配されたが、全くスムー 体的枠組みについて(香川大学・」とその問題点(北星学園大学・中 び残務整理に協力してくれた伊藤 ができた。また、開催日が止むを 監査の拡大の可能性(大分大学・ 概念の吟味(滋賀大学経済短期大 をしてくれた会員の平田 正敏 所 学部・酒居叡一)、⑧私学法監査長、半年間にわたって、準備およ 監査の立場からする「内部統制」 り、また、電算機センターの案内 報告書にみられる定期監査の展開 員、学生課、庶務課、施設課の職 大視することの誤りと株主宛年次 題が発表され、それぞれ活発な議 (立命館大学・千代田邦夫)、② 員の皆様の理解と協力の賜物であ 論が交わされた。①信用監査を過 九時からつぎの四氏による自由論 さらに、午後一時から高田正淳 によるものである。紙上をかりて 会当日お世話になった大学院生、 龍峰・小林窓一両院生、そして大 さらに中森宏研究所長と研究所職 できたのは、前述の学長、学部長 番校としてその貴を果たすことが ゼミ学生などの多くの人々の協力 この大会を盛会の裡に終え、当

昭和60年1月28日 (第71号)

## ニューヨークのパプテスト教会を 訪ね τ 商学部教授 駒次郎



ケイナン・バプテス ト・チャーチの前で

学院教会とは違ったこのよう たという感じであった。 な環境に突然ほうり込まれる ほとんど黒人であった。西南 は約四百人位と思われるが、 あった。古い建物で、出席者 全く別世界に来てしまっ 間にか消えており、ある種の りには、多くの黒人と握手を 四十分で礼拝が終わった。帰 歌の大合唱があり、約一時間 た。最後に、全員による讃美 りの繰り返しが四回位続い るのである。 感動さえ覚えたほどであっ したが、最初の不安はいつの この讃美歌、説教そして祈

と全く違っていた。 がら、この教会は日本の教会 まると、最初静かに讃美歌を って終わりである。しかしな 歌い、静かに牧師の説教を聞 日本の教会では、礼拝が始 最後に静かに讃美歌を歌 た。玄関に日本の教会で言わ

同じ出席するならバプテスト 超教派の教会である。そこで、 スト教会であったが、現在は た。この教会は、昔はバプテ

教会が良いと思い、ホテルで

Church) に行く予定であっ

ド・チャーチ (Riverside

から教えられていたニューヨ 学前に文学部の河野信子教授 機会に恵まれた。最初は、留 学中、教会の礼拝に出席する

ークで一番大きいリバーサイ

に身体を前後左右に揺すりな がら大合唱が始まった。大合 い出した。一番が終わると、教 石に揺すりながら讃美歌を歌 服を着た約四十人の聖歌隊が の壇の上に座っている赤い礼 立ち上がって、身体を前後左 会員も立ち上がり、同じよう 礼拝が始まると、まず正面

月十九日にタクシーで出かけ

くださいと言われたので、ハ た。電話したら、ぜひご出席 Christ)という教会があっ

Baptist Church of スト・チャーチ (Canaan 調べたら、ケイナン・バプテ

市・マンハッタンの北東部に

この教会は、ニューヨーク

師の祈りに合わせて大声で祈 とんど全員が立ち上がり、牧 強く祈り始めた。やがて、ほ り、牧師の口調に合わせて力 り上げて力強い口調で説教を 始めた。すると、教会員の中 唱が終わると、牧師が拳を振 から一人また一人と立ち上が equal sacrifice." not equal giving bu in Faith, We build 金」に相当する"Together れている「収入の十分の一献 **捧げる犠牲が等しくなるよう** 捧げる金額が同じではなく、 に基づいて献金しましょう。 に)という大きなポスターが

わっていることを祈っている。 その時は新しい教会に建て替 このポスターは古い建物の再 非常に印象に残った。多分、 院同窓会ロサンゼルス支部長 いた九月二十三日に、西南学 に行きたいと思っているが、 あればぜひもう一度この教会 建のためと思われる。機会が 留学の日程も終わりに近づ 十六日に帰国の途に就いた。 ぼろぼろ出て仕方がなかっ の苦労話を語り合い、最後に らと西南時代の思い出、現在 た。彼らの成功と健康を祈り ながら再会を期して、九月二 校歌を合唱したら、嬉し涙が 力で一生懸命頑張っている彼 た。日本を離れて遠いアメリ

岡崎邦男氏 輩である砥上隆司氏(昭38商 通運)、西南野球部の私の後 ゼルスで同窓会を開いてくれ 家族のお世話により、ロサン 野菜卸商経営)および彼等の と土斐崎誠一氏(昭48商卒・ 私のゼミの卒業生である宮崎 卒・米国国防省関係会社)、 博氏 (昭46商卒•広告業経営) (昭36文卒・日本

平成2年6月30日 (第93号)

本館大会議室で開催された。 八月一日(土)、西南学院大学 第五十回記念大会は、本年、 日本会計研究学会九州部会

本学で 催し、その後、第十周年記念 である。 学会としようという意図のも 今後の同部会のますますの 当っており、それを記念し、 とに、企画、開催されたもの 発展を願って、とくに盛大な ては、約二十年前その発足節

故高田教授は準備委員長とし の開催依頼を快く引き受け、 係者一同はこの第五十回大会 したという自負もあって、関 る。このような部会の歴史の で開催したという事情があ 即目節目で重要な大会を開催

り、日本会計学会九州部会が 大会をも、この西南学院大学 発足してから、第五十回目に 回をこの西南学院大学で闘 実は、この九州部会につい 部会創設の功労者の一人であ 前中の幹事会に続き、学会報 後のお仕事となったことを思 会となった。故高田教授の最 ぞれ会計監査論、国際会計論 にも達し、盛会であった。午 い、感慨無量である。 はるかに越える盛大な記念大 れ、終了時間は、予定時間を 授による記念講演会がもた る熊本商科大学・佐藤好孝教 いて九州部会の長老であり、 な討議が繰り広げられた。 大学・徳賀芳弘氏によりそれ 学・伊藤龍峰氏、および九州 告は、一時より、九州産業大 の問題を中心になされ、熱心 大会は、出席者は約五十名

(報告・商学部教授 山口 稲生

平成 4 年11月 5 日 (第102号)

この大会は、その名が示す通

て大会を成功に導いた。